

○議長(杉田雅史君) ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

2番 良峯喜久男君。

○2番(良峯喜久男君) 2番良峯です。今回、私からは3つの質問を通告させていただいておりましたが、先ほどの前原議員の質問、舟橋村管内道路実態調査の質問につきましてはかぶりますので、産業厚生常任委員会で資料があればそろえていただいて説明を受けたいと思いますので、割愛させていただき、残り2点について質問をさせていただきます。

1点目ですが、9月定例会で村民が安心して外出することができるよう、外出支援(医療、買物等)体制を整備するために各種アンケート調査の結果を集計、検証することで課題を抽出し、体制整備の計画を策定する事業として補正予算が組まれております。

事業の調査として、先行して8月16日までに役場必着で、65歳以上で介護保険認定されていない対象者におたっしゃチェックリスト、65歳以上の全住民に外出支援に関するアンケート調査がされております。そこで、どんな調査結果が出たのか。結果に基づき、村としてどんな施策を考えているのかお聞かせください。

それと、古越村長にお聞きします。

今は亡き金森村長は、住民とのつながりを大切に、各自治会とのコミュニケーションを大切に、語らいの場として、自治会ごとにタウンミーティングを年1回開催されておりました。

コロナ禍の中とはいいいましても、対策を取られて、住民から意見を聞き、舟橋村に対する古越村長の思いを住民の皆さんに伝える機会をつくっていただきたい。

12月4日には、新田富山県知事と各市町村の住民と意見交換をするビジョンセッションが舟橋村で開催されております。まず自分の足で村内を巡回され、擦れ違う住民の皆さんと言葉を交わし、今、舟橋村のために何をしなければならないかを考えていただきたい。

村長に就任されてから多くの問題が山積し、難しい村政のかじ取りの1年だったと思います。毎週月曜日の庁議も大事なことでありますが、対策を取られて、住民の皆さんとのコミュニケーションの機会、その一つとしてタウンミーティングの再開を考えられたらと思いますが、古越村長の考えをお聞かせください。

私からは以上でございます。

○議長（杉田雅史君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 2 番良峯議員の外出支援整備体制事業についてのご質問について答弁いたします。

先ほどの森議員の質問に対する村長の答弁と若干かぶるところもございますけれども、よろしく願いいたします。

議員のご質問にございますように、村では今年度、おたっしゅチェックリストのアンケート調査と外出支援に関するアンケート調査を同時に実施いたしました。それぞれの実施状況を説明いたします。

まず、おたっしゅチェックリストについてご説明します。

この調査は、閉じ籠もり等の何らかの支援を要する方を早期に把握し、介護予防活動等へつなげるため例年行っている調査で、7月に65歳以上の要介護認定を受けておられない499名の方を対象に調査し、412名、率にして82.6%の方から回答を得ております。

調査結果は、個別に点数化し、一定基準の方、61名いらっしゃいますけれども、そういった方には、舟橋村地域包括支援センターから訪問等により詳細を確認させていただき、希望された方にはサービスの紹介を行いました。その結果、7名の方は11月から3か月間実施する介護予防教室「足腰しっかり教室」に参加されておられます。

今後も、調査を有効に活用しながら高齢者健康福祉の増進に取り組んでまいります。

続きまして、外出支援に関するアンケート調査について実施状況を説明いたします。

この調査は、高齢者が買物や通院に外出する際の交通手段の現状やニーズを把握するために実施しました。

調査は、7月から8月に、65歳以上で施設入所者以外の住民564人を対象に実施し、466人の方に回答いただきました。回答率は82.6%でありました。集計・分析は現在民間業者に委託しておりまして、年度末までに分析結果と対策の方向性を示す予定であります。

まだ集計及び分析の途中ではありますが、幾つかのポイントをご紹介します。

まず、買物の状況であります。買物の頻度は、免許証の有無にかかわらず、車で週1回から2回程度行く方が半数近くを占めております。また、買物に行く60%の方が主にスーパーで買物をしていらっしゃいます。そして、買物の不自由さは、半数以上の方はあまり感じていませんが、一方で不自由と感じている方は全体の4分の1程度おら

れ、不自由さを感じている方は、高齢になるとともに増加をしております。

次に、通院の状況であります。通院の頻度は、月に1回以上通院している方が約40%おられ、2カ月に1回以内の方と週1回以上の方も合わせると約77%の方が定期的に通院していらっしゃいます。

通院のための移動手段は、自分で自家用車を運転される方がほとんどです。自分が運転できなくなった場合、医療機関の変更をしてもよいという方は、「変更してみてもいい」と「条件によっては変更してもいい」の方を合わせて50%程度おり、年代別では60代が最も割合が高くなっております。

また、バス等の移動手段があったら利用したいかとの質問には、「いずれ必要になったら利用したい」という方が65%を占め、60代から70代の方が多く状況であります。それに対して「利用しない」と答えた人の多くは80代であり、80代を超えれば交通機関すら利用できない可能性があり、60代から70代を想定した移動手段を検討する必要があることを示しております。

調査の分析全体から見てみると、買物、通院への外出に関して、現時点でも不自由と思っている方は25%程度いらっしゃいます。今不自由であると思っていなくても、高齢化に伴い、年々不自由に思う方の数は確実に増えていくことが予想され、いずれバス等の公共交通機関を利用する取組が必要となってまいります。

以上のような状況が見えてまいりましたので、村といたしましては、総合病院として一定の診療科を有し、中新川郡の在宅医療の拠点ともなっているかみいち総合病院までの交通手段を確保し、病院での受診に合わせ、スーパー等に立ち寄ることができるような循環型のシステムを構築したいと考えております。

今後、具体的な移動手段を検討していきたいと考えておりますが、先進事例を参考にしながら、多様な運営主体による運営の可能性や、住民の利用意識の醸成が図られるよう検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。答弁といたします。

○議長（杉田雅史君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 2番良峯議員さんのタウンミーティングの再開のご質問についてお答えをさせていただきます。

タウンミーティングにつきましては、金森前村長が公約に掲げられ、実施されておいでになりました。住民の皆さんの意見を聞く一つの方法ではあると考えておりますが、

皆様のご意見、ご要望については、年3回実施しております自治会長会議の場でお聞きすることもできますし、随時担当課や担当者にご相談いただくこともできます。また、村長室の扉は常にかいております。村民の方といつでも自由にお話できますので、改めて従来どおりのタウンミーティングを実施する考えは、今のところございません。

しかし、タウンミーティングにつきましては、村として何か重大な決定や判断をしなければならないときや、住民の皆さんのご意見を伺う必要が生じた場合には開催するつもりでございますので、ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。